

(別紙2)

仕事と介護の両立事業取組結果

企業名	アールイープロデュース株式会社
所在地	東京都千代田区五番町5-6 ビラカーサ五番町807
業種	専門サービス業（他に分類されないもの）
常用労働者数	2人
事業内容	経営人事コンサルティング
ホームページ	http://www.re-p.co.jp/

1 相談内容や従業員 ニーズ調査の結果等 により判明した課題	課題1：将来の介護が発生した場合、不安がある 課題2：自社の介護制度の周知が出来ていない 課題3：介護しながら働くことが出来る社内環境が出来ていない
2 働き方の見直しに 関する検討状況	(1) 検討方法 7月14日 プロジェクトチームを立ち上げ、検討することとした。 【メンバー】：チームリーダー 介護相談員 サブリーダー ベテラン社員 メンバー 一般スタッフ (2) 検討経過 ① 8月3日第1回検討会 検討内容：アンケート結果の現状分析を行いながら、 取り組み内容の方向性を検討した。 ② 9月7日第2回検討会 検討内容：具体的な取り組み内容を議論し、決定した。
3 仕事と介護の両立 に関する取組計画	【目標1】社内研修会の開催による公的介護制度等の知識や情報に関する講習会および自社の介護制度の周知および情報交換会の開催 (計画期間等：平成27年度から毎年1回程度開催) 【目標2】仕事と介護の両立のための支援制度（フレックス等の短時間勤務制度）の検討 (計画期間等：平成27年度・・・短時間勤務制度の導入検討)

1. 調査概要

自社の介護制度に関して知らない人が多い。
介護に不安を感じている人が大勢。
いざ介護が必要となった場合、介護しながらでも働き続けられる環境を希望しており、
会社として仕事と介護の両立ができる何らかの労働環境整備が必要と思われる。

2. 調査結果報告

- 介護の経験のある人はいない。
- 5年以内に介護する可能性がある人ばかりである。
数年後、今の社員の親などの親族を介護する確率が高いと言える。
社内で勤務しながらでも介護が出来る体制を今から構築しておくことが重要となる。
- 将来介護する可能性について、主として誰がやるか？という点で、
「その他親族」「わからない」となり、自分や配偶者がやるという答えは無かった。
- 介護に不安を感じている人が多数。
「少し不安を感じる」が大勢で
自分が介護休業等を取得した場合、仕事の両立が出来るか不安を抱いている傾向が強い。
具体的理由としては「介護の先が見えない不安」「自分が介護すると収入が得る」など
また、自分が介護を行うことになると、仕事を止めなければならない可能性が高いという不安がある。
- 介護することになった場合、どのような働き方が望ましいか？に対して
「短時間勤務制度」を利用しながら仕事を継続すること望む声が高かった。
また、休業制度なども利用して仕事を継続することも少数意見があった。
少子高齢化に向けて今から社内働き方を変える制度整備が重要と感じた。
- 公的介護保険制度については、理解できている部分と出来ていない部分がある。
また、「地域包括支援センター」については知らなかった。
一部理解不足があるため、公的介護制度等の教育が必要と思われる。
- 勤務先の介護に関する支援制度については、「制度の存在」は知っているが
「制度の内容」は知らないと回答した。
この事実は会社として、自社の介護制度等のことについて社員が十分理解できていないことが
判明し、説明する必要性を感じた。
- 介護休業の使い方の理解について
「介護休業期間は介護に専念するための期間である」
という理解が多く、介護休業＝どっぷり介護に専念という理解の様である。
介護を社会で支えるという理解を深める必要を感じる。教育啓蒙が必要。
- 職場の残業も提示で退社しており、希望通り。
また、有給休暇についても希望通り取得できているようです。
- 長時間労働の削減や業務効率化のための取り組みとして、
仕事のやり方や進めたの教育を上げた。生産性や効率を上げることで残業を減少させている。
- コミュニケーションについても、
上司とのコミュニケーションはかなりうまくいっていることが伺える。
また、部下同僚とのコミュニケーションも概ね良好と言える。

3. 課題整理

- 課題1: 将来の介護が発生した場合、不安がある
- 課題2: 自社の介護制度の周知が出来ていない
- 課題3: 介護しながら働くことが出来る社内環境が出来ていない